校長室だより～燦燦～ №６２３

パーキンソンの法則

2022.9.14

ある仕事を任されたとする。締切期日まで時間がある。すると、必要以上に時間をかけたり、先延ばしにして結局終わるのが締切直前になったりする。そんなことはないだろうか。「パーキンソンの法則」というものがある。仕事は、完成までに利用可能な時間を使い果たすように拡大していくというものである。

数時間で完了できるとわかっていることを締切直前まで後回しにする。これは、紛れもなく後回しの行為であるが、パーキンソンの法則の作用でもある。私たちは、使える時間があれば、ついつい使い果たしてしまう。時間をかけてゆっくりと完了させようとしたり、後回しにして期日の直前に仕上げようとする。

パーキンソンの法則とは、イギリスの歴史学者・政治学者であるシリル・ノースコート・パーキンソンの著作『パーキンソンの法則：進歩の追求』の中で提唱された法則である。これには、上記のもの以外にもう一つある。支出の額は、収入の額に達するまで膨張するというものである。

３０分で終わるはずの会議も１時間で設定していると、１時間ぎりぎりまでかかってしまう。収入が増えたはずなのに、その分支出も増え、お金がまったく貯まらない。このようなエピソードは、身近な例としてわかりやすい。

また、この法則には、コンピュータに関するバリエーションがある。それは、データ量は与えられた記憶装置のスペースを満たすまで膨張するというものである。システムに組み込まれるメモリー容量の増加は、より多くのメモリーを必要とする技術の発展を促すのである。

あるいは、この法則を、ある資源に対する需要は、その資源が入手可能な量まで膨張するという形で述べることができる。例えば、どんなに大きな冷蔵庫を買っても必ず満杯になる。２０年ほど前に新築した我が家の書斎もそうなのかもしれない。本棚など、かなりの収納スペースを設けたつもりであった。それが今では本棚からはみ出し、収納しきれずに、息子の部屋に侵出している。

昔は、仕事を後回しにして、締切直前になってから取りかかるような人間だった。そんな自分が嫌だった。もっと早くやればよかった。何度そう思ったことか。そんな自分が今では、次から次へとさっさと仕事を片づけていく人になっている。変われば変わるものである。

パーキンソンの法則は克服できるのである。ただし、これは一つめの法則であって、二つめの方はわからない。やはり、人は時間やお金、特にお金を、あればあるだけ費やしてしまうように思う。法則というからには、よほどの対策をしない限りそうなってしまうのであろう。

我が家の書斎と息子の部屋についても、家人には、パーキンソンの法則のことを伝えてあきらめてもらおうと思う。